

講演会報告

「トップ女性研究者による宇宙地球環境科学 – 海洋化学 –」

**Lecture and panel discussion on "space-earth environmental science: marine chemistry"
by top woman researchers**

南 雅代^{1*}

Masayo Minami^{1*}

¹名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究部

¹Division for Chronological Research, Institute for Space-Earth Environmental Research, Nagoya University,
Nagoya 464-8601, Japan

*Corresponding author. E-mail: minami@isee.nagoya-u.ac.jp

Abstract

The lecture and panel discussion on "space-earth environmental science: marine chemistry" was held by top woman researchers at the ES hall in the first floor of the ES building, Nagoya University on October 31, 2019. In the former part, Prof. Kazuyo Tachikawa, a director of the CEREGE, Aix Marseille Univ/CNRS/IRD/CdF, gave a special lecture on marine geochemistry, and Prof. Naomi Harada, a director of the Earth Surface System Research Center, JAMSTEC, gave a talk on the activities of the Antarctic research expedition. In the latter part, we performed active exchange of opinions together with participants about the difference in approach for the gender equality and study environments between Japan and French.

Keywords: lecture; panel discussion; top woman researchers; marine chemistry

1. 事業の目的と概要

宇宙地球環境研究所では、令和元年10月30日（水）に、「海洋」を対象にした研究で世界的に活躍している立川和代（専門分野：海洋地球化学、古海洋学）・フランス国立科学研究センター 研究部長、そして原田尚美（同：有機地球化学）・海洋研究開発機構 地球環境部門 地球表層システム研究センター センター長の2名の女性トップリーダーをお呼びし、前半部では、各々の研究内容や活動内容を講演する「講演会」を、そして、後半部においては、フランスと日本の男女共同参画の取り組みの違い、それぞれの問題点などについて会場の皆さんとざっくばらんに話し合う「パネルディスカッション」を実施した。

まず、宇宙地球環境研究所の草野所長から、本講演会の開催趣旨について説明があった。その後、立川博士から「過去110万年の大西洋における海洋循環と炭素の蓄積」について講演があった。立川博士の主たる研究テーマは、現在の海洋におけるトレーサや代替指標（プロキシー）の挙動の解明、および、トレーサやプロキシーの応用による過去の気候変遷の再構築である。本講演においては、浮遊性有孔虫のMg/Ca（海水温度の指標）や堆積物の化学組成に加え、付着酸化物から抽出されたNd同位体比と底生有孔虫の炭素同位体比を組み合わせることにより、過去1100 yrでの大西洋における海洋循環と炭素の蓄積についての研究内容が紹介された。最新の分析技術を用いた高精度の分析の話、特に、従来考慮されていなかったNd同位体比の挙動を加味しながらの考察は大変興味深いものであった。

次に、原田博士から、第60次南極地域観測隊副隊長兼夏隊長として南極で海洋観測・野外観測の取りまとめを行った活動について、苦労話を交えながら紹介がなされた。講演後、学生から、どのようにすれば南極観測に参加できるのかなどの質問が寄せられるなど、活発な質疑応答がなされた。

後半部では、フランスと日本の男女共同参画の取り組みの違い、研究環境の違いなどに関して、会場の皆さんと意見交換を行うパネルディスカッションを行った。フランス、日本の男女共同参画の現状をデータ把握した後、意見交換を行い、女性vs.男性という構図を崩していくことが重要であること、多様性の認識が重要であること、そのためには子どもの頃の教育がキーになることなどが議論された。学生、ポスドク、シニアの幅広い年齢層からさまざまな質問やコメントがだされ、男女共同参画を考える良い機会となった。

本講演会は、はじめての試みであったが、学部生・大学院生からポスドク、教員に至るまでの参加者がざくばらんに意見交換会ができる良い場であったと考えられる。次回は、宇宙地球環境科学の別の分野のトップ女性研究者をお呼びし、是非また、同様の講演会を開催したいと思っている。最後に、講演会のポスターを図1に示しておく。

日本語要旨

令和元年10月30日（水）、海洋化学分野で活躍されている2名の女性研究者による講演会・パネルディスカッションを、ES総合館1階ESホールにて開催した。前半部では、立川和代・フランス国立科学研究センター研究部長による海洋地球化学に関する研究紹介、そして、原田尚美・海洋研究開発機構 地球表層システム研究センター長による南極観測の活動紹介がなされた。また、後半部では、フランスと日本の男女共同参画に対する取り組みの違い、研究環境の違いなどに関して、会場の皆さんと活発な意見交換が行われた。

The poster is for a lecture and panel discussion held at Nagoya University. The title is '講演会 トップ女性研究者による宇宙地球環境科学 — 海洋化学 —' (Lecture by Top Female Researchers on Space Earth Environmental Science - Marine Chemistry). The date and time are '2019 10/30 (水) 13:00 ~ 16:30' (October 30, 2019, Wednesday, 13:00 ~ 16:30). The venue is '会場：名古屋大学 ES 総合館 1 階 ES ホール' (Venue: Nagoya University ES Comprehensive Building 1st Floor ES Hall). The poster includes a program section with two parts: '第1部：特別講演' (Part 1: Special Lecture) from 13:10 to 15:10, featuring a lecture by Ritsuko Tachibana (立川 和代) titled '「フランスの研究体制と最近の研究例：過去 110 万年の大西洋における海洋循環と炭素の蓄積」' (Research system in France and recent research examples: Ocean circulation and carbon accumulation in the Atlantic Ocean over the past 110,000 years). The second part is '第2部：パネルディスカッション' (Part 2: Panel Discussion) from 15:30 to 16:30, titled '「第 60 次南極地域観測隊報告～副隊長兼夏隊長として」' (Report of the 60th Antarctic region observation team ~ as a deputy team leader and summer team leader). The panel discussion features two speakers: Ritsuko Tachibana (立川 和代) and Naomi Harada (原田 尚美). The poster also includes contact information, a map of the venue, and logos of the organizing institutions.

図1. 講演会のポスター